

塗り足しと文字切れ

1 トンボについて

「トンボ」には仕上りサイズ等を表すコーナートンボ(右図①)と、天地左右の各中心を表すセンタートンボ(右図②)の二種類があり、印刷や製本作業時に必要不可欠なものです。

コーナートンボは「内トンボ」(又は仕上りトンボ:右図①①)と「外トンボ」(又は塗り足しトンボ:右図①②)の2つから成っていて、内トンボの延長線上で断裁することで仕上りサイズになります。

2 塗り足しと外トンボ

断裁作業は何百枚と重ねた状態で行うため、断裁位置に微妙なズレが生じます。絵柄が内トンボまでしか描かれていないと、この断裁のズレが内トンボより外側に生じた際に紙の白地が出てしまう(下図③)ので、内トンボより外側に絵柄を延長させる(下図④)必要があります。この延長分が「塗り足し」で、天地左右に各3mm(又は5mm)設けます。

外トンボはこの塗り足しの範囲を表すもので、絵柄を紙面一杯まで表現したい時は、この塗り足しを設ける事が必要不可欠です。

トンボの役割を正しく理解して失敗のない同人誌を作りましょう。

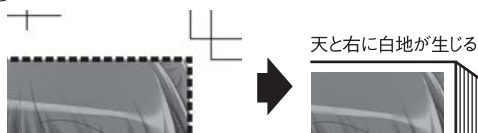


※ 図中の破線は仕上りサイズをあらわしています。

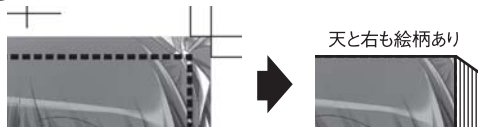


※ 図中の実線は断裁ズレをイメージしています。

③ 塗り足し無し



④ 塗り足し有り



3 文字切れと仕上り(内トンボ)

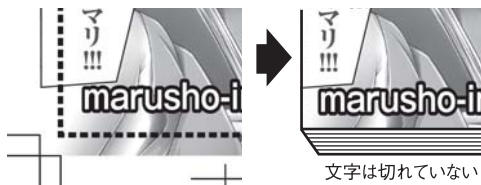
切れては困る要素(文字等)が仕上りに近接している(下図⑤)と、②とは逆に断裁のズレが内トンボより内側に生じた際、文字切れを起こす可能性が出てきます。

これを避けるため、切れては困る要素(文字等)は、必ず仕上りより内側(3mm以上)に配置する(下図⑥)ようにします。

⑤ 仕上りに近接



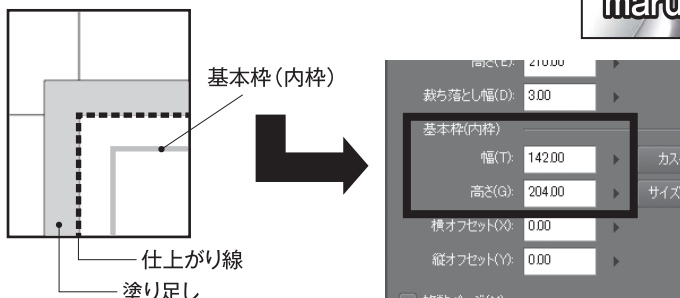
⑥ 仕上りから離す



4 対策の実例 (CLIP STUDIOの場合)

③の対策として、CLIPS TUDIOで基本枠を利用する方法を例に挙げます。

新規キャンバスで基本枠を設定(仕上がりサイズから幅・高さを各6mm小さくした値を入力)する事でこの線を目安、つまり文字切れ防止のボーダーラインとします。(下図)この他にもガイドラインを利用する方法もあります。



完成形を常にイメージして作成を!